

# 被害

## 水田の嫌われ者 ジャンボタニシが蔓延

まんえん

近年、市内の水田でジャンボタニシの被害が広がっています。

食用として輸入されたジャンボタニシ(学名 スクミリンゴガイ)は、雑食性で稲を食い荒らすなどの被害をおよぼし、年に2,000個から8,000個の真つ赤な卵を驚異的な繁殖力で産みつけるため、有害動物に指定されています。

次の事項に注意し、防除に努めましょう。

- ・水路からタニシが侵入する場合は、取水口に金網を設置し侵入防止に努めましょう。
- ・稲刈り後の防除方法としては、石灰窒素が有効です。

(下図参照)

また、農薬としては専用剤「スクミノン」または「キタジンP粒剤」が効果的です。

※ただし、使用時には必ず河川等に流出しないよう使用しましょう。

・冬の時期に耕耘し、越冬中の貝を寒気にさらして除去します。



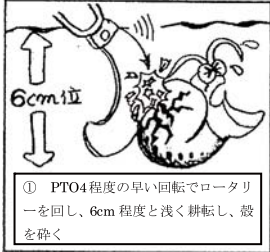
### 秋・収穫後にできる対策

#### 石灰窒素による防除



### 冬にできる対策

#### 冬耕による貝殻の破壊と寒気による殺貝



# 農振

## 指定地の目的外利用には許可が必要です

〈農業振興地域整備計画変更の届出〉

「農業振興地域整備計画」に指定された「農振農用地」は、農業以外の目的で利用することはできません。やむを得ず他の目的(住宅店舗資材置場等)に利用したい場合は、「農振農用地」からの除外(農振除外)農用地利用計画の変更)を行つたうえで、農地転用の許可を受ける必要があります。

受付期間 10月30日(木)～11月28日(金)  
受付場所 市役所農林水産課  
\*申請書様式は担当課窓口のほか、市のホームページからダウンロードできます。

問合せ 農林水産課 農林水産係  
(80) 1211



### 第5回 木質バイオプラスチック(1)

バイオマス室長のちよととエコなコーナー

皆さんは、日本全国でプラスチックがどのくらい生産されているか知っていますか? 答えは、年間生産量約1,400万トン(世界第2位 経済産業省調べ)です。この一部でも他の製品に変われば、ぜひ分石油使用を減らし、環境への負荷を軽減することができると思いませんか? 実は、これらプラスチックに代わる製品が、この山武市にはあります。環境にやさしい「山武市産木質バイオマスプラスチック」製品です。この製品は、サンブスギの樹皮等とプラスチック(ポリプロピレン)で作られており、石油からできたプラスチックに比べてCO2排出量を55～60%低減します。(ライフサイクルアセスメント: LCA評価)



今年開催された国際会議(G20、G8+5)でも使用された「山武市産木質プラスチック」製品(ボールペン)が各国議員から高い評価を受けました。また山武市議会や教育現場でも使用が始められています。

問合せ バイオマス推進室

(80) 1213